

卒業生別れのことば

暖かい陽の光が降り注ぎ、春の訪れを感じる今日、私たちは卒業の日を迎えました。第六中学校で過ごした三年間はあつと言う間で、期待と不安でいっぱいだった入学式が昨日のように思えます。その中でも、修学旅行、六中祭、体育大会、合唱コンクールなどの行事は、忘れられない大切な思い出です。ほとんどの行事で雨となり、また晴れだった体育大会でも女子のダンスの曲が流れない、男子の集団行動で指示が通らなくなるなどのトラブルにも直面しました。そんな時も、流れない曲を皆で歌ったり、覚えていたタイムミングで向きを変え、臨機応変に対応し学年全員で乗り越えてきました。合唱コンクールを通じて三年間心を一つにして歌い続けた「Smile」は、この先も私たちを支えてくれる大切な歌となりました。

中学校生活の多くの思い出が大切に思えるのは、ともに過ごした仲間がいたからです。苦しいとき、自分以上に心配してくれる仲間がいました。嬉しいとき、自分のことのように喜んでくれる仲間がいました。その存在こそが私たちの宝ものです。

今年は予想もしなかったコロナウィルスの影響で、仲間と過ごす最後の二週間がなくなってしまい、心の準備ができないまま最後の授業が終わりました。しかし、その最後の日も私たちにらしく、精一杯大切に名残惜しみながら過ごせたので、後悔はありません。

またいつか皆で笑い合えるそんな日を願いながら、胸を張って歩んでいきます。

三年前、今よりもずっと未熟だった私たちがここまで頑張ってこられたのは、三年間粘り強く支え続けて下さった先生のおかげです。

先生は授業、行事、クラブ活動など、私たちがいつも楽しんで取り組めるように日々考えて下さいました。小さなことでも見つけてその度に褒めて下さり、とても嬉しかったです。悩み事の相談にも乗って下さり、言葉一つ一つが私たちの助けとなりました。間違ったことをした時には、厳しく叱って下さいました。そんな先生に素直になれず反抗して迷惑をかけたことも多々ありましたが、どんな時も最後まで見捨てずに向き合ってくれました。その先生の姿はとても大きく私たちの憧れです。尊敬しています。大好きです。

先生のもとで三年間過ごせたことは、私たちの大きな糧となりました。今日、先生の目に、三年前より成長した私たちの姿が映っていたら嬉しいです。本当にありがとうございます。

ぼくらがここまで大きく成長できたのは、家族が愛情をこめて育ててくれたからです。十五年前、ぼくはたった身長五十七センチ、体重三キロでした。今は身長も体重も増え、今まで見上げていた両親の顔も、上から白髪をみつけられるほどに成長しました。それでも、両親から叱られたり、心配をかけたりして、その度に反抗してしまいました。夜遅くまで帰らなかったり、見捨てられてもおかしくないことをしたときも、あきらめずに向き合ってくれました。両親だけではありません。兄弟は小さいときから遊び相手になってくれたり、色々なことを教えてくれました。祖父母は両親に相談できないことも聞いてくれました。これまで支えてくれた家族に心から感謝しています。高校生になったら、家事などできることから手伝い、一人前の家族として支えたいです。まだまだ迷惑をかけるかもしれませんが、これからもよろしく願います。精一杯親孝行をするのでいつまでも元気でいてください。

今日で、ともに勉強し、ご飯を食べて、話をして、笑い合った日々は終わります。

小学校の卒業式ときは、「また中学校でも会える」と思えたけれど、それぞれ進む道がバラバラとなるこの卒業式では、もう同じようには思えません。会えなくなるかもしれないと思うと、胸が締め付けられるように苦しくなります。それでも今、泣きながら笑うことができるのは、この学年の皆で過ごせたからだと思います。ありがとうございます！全員が全員にとってかけがえのない仲間です。

最後になりましたが、私たち卒業生は、第六中学校の名に恥じぬよう、これからも正しい道をまっすぐに歩んでいきます。そして、新しく出会う人から学び成長することを誓います。どうか見ていて下さい。

「ALL SMILE」今日の良き日、全員笑顔でこの第六中学校を巣立ちます。

令和二年三月十三日

卒業生代表